

緋寒桜（ヒカンザクラ）

1945年（昭和20年）3月26日、沖縄戦はアメリカ軍が慶良間諸島に上陸して始まり、8月14日のポツダム宣言受諾後も続き、9月7日に日本軍が降伏文書に調印し、激戦が終わりました。

悲惨な戦地となった沖縄県で、今も大切にされる精神を表した「命どう宝（ぬちどうたから）」という言葉があります。沖縄県の平和祈念公園にはこの言葉とともに、「命こそ最高の宝である」と刻んだ石碑が置かれ、裏面に「戦争は終わった 平和は人の心でつくる 命こそ究極の宝」との言葉が刻まれています。

多くの人々が戦火を前に、早春に咲き誇るヒカンザクラを目にしたことから、ヒカンザクラは全ての犠牲者をしのぶ、平和の象徴でもあります。

平和の礎を訪れる人々に静かな平和のメッセージを伝え、平和学習の場として、一人でも多くの方が平和に思いを馳せるきっかけになることを願っています。

ヒカンザクラは、沖縄県内に広く分布している早咲きの品種で、沖縄戦跡でも数多く見られます。和名の緋寒桜は花色が緋色に染まることから付けられ、寒緋桜（カンヒザクラ）とも呼ばれています。



写真出典：おきなわ緑と花のひろば（沖縄県 環境部環境再生課）

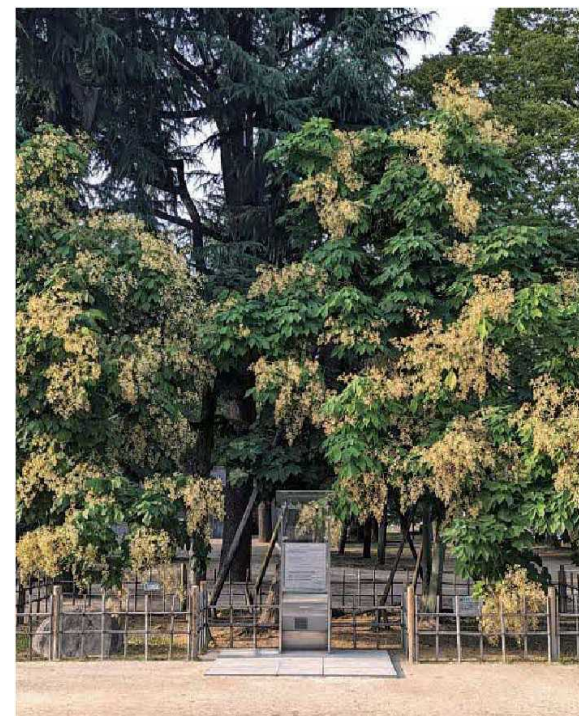
アオギリ（広島の被爆樹木二世）

1945年（昭和20年）8月6日午前8時15分、一発の原子爆弾により広島は街は廃墟と化し、その年の暮れまでに14万人もの市民が亡くなりました。

被爆樹木は、被爆の惨禍に遭いながらも、焼け焦げた幹から再び芽吹き、市民に生きる勇気と希望を与えるとともに、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を訴え掛けています。

貴自治体にお贈りしたこのアオギリの二世が大切に育てられ、多くの人々に愛されることにより、貴自治体の平和のシンボルとなることを心から願っています。

このアオギリは、生き残った親木の種から発芽したものです。親木は爆心地から1,300メートルの距離にある旧広島逓信局（広島市中区東白島町）の中庭で被爆しました。爆心地側の幹半分が原爆の熱線と爆風により焼けてえぐられましたが、焦土の中で青々と芽を吹き返し、市民に生きる勇気と希望を与えました。1973年（昭和48年）に平和記念公園に移植され、今も成長を続けています。右のQRコードを読むと、被爆樹木の位置情報が表示されます。



広島市の平和記念公園内の親木



平和首長会議
Mayors for Peace

嘉代子桜（かよこざくら）

1945年（昭和20年）8月9日午前11時2分、長崎市松山町の上空約500mで原子爆弾がさく裂しました。城山国民学校（現在の長崎市立城山小学校）は爆心地から西方500mの場所にあり、最も爆心地に近い国民学校でした。

長崎県立高等女学校4年生（当時15歳）だった林^{かよこ}嘉代子さんは、学徒報国隊員として城山国民学校で働いているときに被爆して亡くなりました。

嘉代子さんの母・津^{つえ}恵さんは、1949年（昭和24年）、若くして命を落とした娘や他の女学生をしのんで、城山小学校に桜（ソメイヨシノ）を贈りました。この桜は、「嘉代子桜」として、児童をはじめ、多くの人に親しまれ、今なお大切に育てられています。

「嘉代子桜」とともに、平和を希求する心が多くのまちに広がることを願っています。



長崎市立城山小学校の嘉代子桜

